

# 平成28年7月 経営協議会議事録

- I. 日 時 平成28年7月21日（木） 14時00分～16時05分
- II. 場 所 学術総合センター 一橋講堂特別会議室101～103（1階）
- III. 出席者 徳久学長、犬養、香藤、河田、島田、西堀、萩原、船橋、正宗、宮坂  
中谷、渡邊、松元、安村、猿渡、堀、山田、酒井、金原、宮崎 各委員
- ががー 桑古監事、角監事  
(欠席者：有馬、加賀見、黒木、銭谷、武藤、山本 各委員)

- IV. 前回審議議事録について  
原案のとおり承認された。

## V. 審議事項

1. 平成29年度概算要求（案）について（◎学外委員、○学内委員）  
中谷理事から、平成29年度概算要求（案）の概要について、資料に基づき説明があった後、それぞれの担当から以下の事項ごとに資料に基づき説明があった。  
続いて、猿渡理事から、概算要求全般及び施設整備費要求事項について、資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。  
主な意見は以下のとおり。
- ① アカデミック・リンク大学院教育について
- ◎ 学生は、アクティブ・ラーニングに具体的にどのように携わるのか、その具体例を示すことによって、アクティブ・ラーニングのブランドを高くアピールできるのではないか。
- 授業の仕方にアクティブ・ラーニングを導入して授業スタイルそのものを変えていくことや、学生の学びに関して、環境そのものが授業外での様々な学習を促しているということが明らかになっている。
- ◎ ティーチング・ハブ（人的支援）とあるが、どのような人材を育成するのか、もう少し具体的に教えてほしい。
- 従来は、大学院生の学部生に対する学習指導が中心であったが、それに加え、アカデミック・リンク・センターが教育関係共同利用拠点に認定されたことに伴う教育・学修支援専門職の育成にも取り組んでいる。
- ◎ 従来アカデミック・リンクを充実させた新アカデミック・リンクとしているが、具体的にどういう指標を採用して、そのように評価しているのか。  
また、実際に成果に繋がるまで時間がかかると思われるので、プロセスにおける目標でもよいので明確にして進めた方がよいと思う。

- 詳細については検討中の部分もあり、教育の成果を短期的に測ることは難しいが、しかるべきKPIを設定して、教育IRの機能を取り入れて教育の成果を評価する仕組みを構築したい。
  - ◎ 新アカデミック・リンクとあるが、どのように変わるのか内容が明確ではない。もう少し具体的に分かりやすい内容にするとよいのではないか。例えば、人的支援としては、専門職による学生指導やTAの配置などを加えたり、コンテンツとしては、ナンバリングや授業選択制などを加えたりした方が、学生や保護者にとっても分かりやすい内容となる。
- ② 理工系大学院改組による大学院先進科学プログラムについて
- ◎ 融合理工学府や人文公共学府の設置とあるが、「府」というのはどのようなものか。
  - 「府」は大学院生が在籍する組織であり、それとは別に教員組織が存在する。その方が流動的に教育を行うことができる仕組みとなっている。
  - ◎ 今回の改組を検討するに当たって、企業の研究部門などに対するヒアリングは行ったのか。企業のニーズがどこにあるのかなどを把握した上で進めた方がよい。
  - 昨年度、文部科学省の委託による理工系人材育成に関する調査研究で、1万社に対するアンケート調査を行った。その中で、理学・工学全体を俯瞰できる人材を育成すべきという回答を得て、今回の改組に繋げている。
  - ◎ 新しい試みでよろしいと思うので、これを機会にこれまでの希薄な横の繋がりを改善して、光り輝くような組織にしてほしい。
  - 今回の改組に伴い、教員組織そのものについても、融合科学研究科を廃止して理学研究院と工学研究院に再編整備するので、これまでより強い繋がりが期待できる。
- ③ 世界最高水準の海外教育研究拠点形成について
- ◎ 育成するグローバルリーダーの像は、このようなものというものがあれば分かりやすい。
  - グローバルリーダー像とは、例えば、幅広い視点を持ち、物事を俯瞰的に考えることのできる国際的に活躍し、他の者をリードする者などを想定している。
  - ◎ 機能強化の方向性が理工系に偏っている気がする。地域から世界に出ていく時代にあって、地域におけるグローバルリーダーを千葉大学で育成するに当たって、どのような考えを持っているか。  
学部横断的なプログラムなど、地域に出て活躍している社会人の学び直しに対応したカリキュラムを用意して、グローバルリーダーとして、また組織に戻

って活躍するようなことを考えてもよいのではないか。

さらに、最近の千葉大学の文学部や法経学部の卒業生には、新聞社などのジャーナリズム分野に就職する者もいるので、文学部にジャーナリズム学科など設置してみるのもよいのではないか。

- 今回の概算要求の事項にはないが、決して人文系分野を軽んじている訳ではない。グローバルについても、拠点を形成するところには至っていないが、例えば、文学部が米国のシンシナティ大学と協定を締結しており、今後、人文系分野においても発展することを期待している。

また、本学はCOC+を獲得しており、グローバルな視点を持って地域創生を見直し、様々な起業家を応援することも行っている。

- 千葉大学における国際教育は国際教養学部だけに委ねられている訳ではなく、今回の人文社会科学研究科の大学院改組においても、国際性や社会性など養う能力を身に付けるべく、横串を刺す形で国際インターンシップや地域インターンシップを設定している。なお、この改組に先んじて、今年度、ロシア、中国、台湾などで実習を実施する予定である。

また、卒業生との連携ということで、文学部では、キャリア教育の一環として、現在、社会で活躍している卒業生による特別講演を行っており、今年度は、千葉日報社から文学部の卒業生を派遣してもらうことも予定している。

- ◎ 今回の千葉大学の概算要求は、教えられ上手の学生から学び上手の学生に変えていくというのがコンセプトであると考えられる。自らの環境が変わった中で学ぶ力を身に付けることができる人が、リーダーになれる。その目的を達成するための手段として、組織の改革があるのであって、目的と手段を取り違えないように、KPIを含め、それぞれを明確にして全体像を可視化していくことが大切である。千葉大学の改革の方向性は非常に素晴らしいと思うので、分かりやすい形でまとめていけば、より良い変革になると思われる。

#### ④ 亥鼻キャンパス高機能化構想について

- ◎ 資料の中に「専属教員と事務職員のタイアップ新組織」とあるが、この考え方を他の学部・大学院に展開して、職員と教員、学生が一体となって取り組むことが大切だと思う。

### 2. 平成28年度第一次補正予算（案）の編成について

猿渡理事から、平成27事業年度の財務諸表が承認された旨説明があった後、第2期中期目標期間終了時における積立金の処分に関して承認されたことに伴い、平成28年度第一次補正予算を編成することについて、資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

## VI. 報告事項

### 1. 学長選考会議の審議状況について

学長選考会議議長代理である山田委員から、学長選考会議の審議状況及び今後の学長選考日程について、資料に基づき報告があった。

2. 平成28年度科学研究費助成事業の交付内定状況について  
松元理事から、平成28年度科学研究費助成事業の交付内定状況、大学全体の科研費採択状況の推移及び部局別の新規・継続採択状況について、資料に基づき報告があった後、8月2日(火)に開催される参加型セミナー「科研費の獲得に向けて」について、資料に基づき説明があった。
3. 平成28年度学長と学部長等との夏季特別集中討議について  
中谷理事から、7月29日から30日にかけて実施される平成28年度学長と学部長等との夏季特別集中討議について、資料に基づき報告があった。
4. 平成27年度卒業生・修了生の進路状況について  
渡邊理事から、平成27年度における学部・大学院の就職率及び卒業生・修了生の進路状況について、資料に基づき報告があった。

以上